

令和元年度 学校評価報告

銚田市立旭北小学校長 平沼 一彦

1 学校教育目標

□楽しく学び、励み、育つ、心豊かな人間の育成

2 組織目標

- (1) 夢を育み、よさを認め励まし伸ばす教育の推進
- (2) チーム旭北を生かした組織的な教育活動の推進

3 学校評価（教職員、児童、保護者）

(1) 実施期日等

対象	期 日	回答者数(人)	回収率
教職員	12月17日(火)～20日(金)	12	100%
児童	12月9日(月)～16日(月)	80	98.7%
保護者	12月9日(月)～12日(木)	60	96.7%

(2) 教職員の評価結果の成果と課題及び対策（資料1「職員」欄参照）

【成果】

1：組織目標（夢を育み、良さを認め励まし伸ばす。チーム旭北）の実現を図った。

7月 3.4 → 12月 3.5 +0.1

取組：教員評価面談や職員会議，全校朝会，様々な行事のあいさつの中でなど，機会がある毎に校長が意識付けとなる話をしていた。「自己有用感をもたせる」は職員の口癖にもなっている。

成果：児童アンケート「自分の良さを先生は認めたり励ましてくれたりしてくれる」A+B評価 98%（同様の保護者アンケートでも A+B 98%）

11：学級や縦割り班活動等での児童の頑張りを認め励ましている。

7月 3.6 → 12月 3.6 ±0

取組：学校生活の様々な場面で縦割り班活動を取り入れている。行事，清掃，児童活動，授業など上級生が自然に下級生の面倒を見るようになっている。加えて，「自己有用感をもたせる」という，組織目標を何度も様々な場面で校長が話の中に取り入れている。

成果：児童アンケート「縦割り班などみんなで楽しく活動することができる」A+B評価 96% 「みんなで何かするのは楽しい」 A+B 98%（同様の保護者アンケートでも，A+B 100%）

15：児童や保護者の話に親身に対応している。

7月 3.3 → 12月 3.7 +0.4

取組：年間を通して生活アンケートを実施し，その後個別面談を取り入れている。教員評価でも積極的に取り上げ，学級経営の評価項目にほとんどの担任が挙げている。保護者とのケース会議や定期的な面談も行っている。

成果：児童アンケート「先生は何でも相談しやすい」A+B 100%（同様の保護者アンケートでも A+B 95%）

17：いじめの根絶といのちの大切さについて指導している。

7月 3.8 → 12月 3.8 ±0

取組：年3回の人権集会を行い、子供たち主体で人権についての意識を高めている。縦割り班でのいじめ撲滅スローガンの作成や、いじめ防止の標語づくりなどを熱心に取り組んだ。毎月のいじめアンケート（生活アンケート）を実施し、その後個別面談も実施している。

成果：児童アンケート「いじめは絶対にやってはいけない」A評価 95%、（保護者向け「学校はいのちの大切さについて指導している」A+B 94%）

24：児童の安全確保に努めている。

7月 3.8 → 12月 3.9 +0.1

取組：年5回の避難訓練（火災・地震・不審者・原子力災害・地域防災）、毎月全職員による安全点検、毎日の下校指導、学期毎の通学路現地地点検等、常に児童の安全安心を第一に考える素地がある。また、避難訓練でも、児童が「自分のいのちは自分で守る」意識の高揚を目指し、よりリアルな場面設定で行うように改善している。

成果：保護者「学校は児童の安全確保に努めている」A+B 100%

【課題と対策】

2：児童は学校生活を楽しんでいる。7月 3.8 → 12月 3.5

3：よくわかる授業を心がけている。同上 3.5 → 3.2

5：考えを伝え合う力を伸ばす授業を行っている。同上 3.3 → 3.1

6：児童が主体的に取り組む指導を工夫している。同上 3.4 → 3.0

12：道徳の授業時数確保と道徳性を養う授業を心がけた。同上 3.5 → 3.1

16：児童との触れ合う時間を多くするよう努めている。同上 3.3 → 3.0

課題：2学期の内外の行事とその準備・出張等の過密とも感じられる日程による多忙感が背景にあると考えられる。教育月間の11月には、学級担任の関係する出張は1日平均で1.3件。多い日には4人の担任が不在、校長も填補に出ることも珍しくなかった。児童のそばにいる時間の減や、時間に追われながら学習指導に余裕がもてない担任の様子が透けて見える。

他方、児童アンケートでは「授業がよくわかる」A+B 98%、「学校は楽しい」同 96%、「授業に自分から進んで取り組んでいる」同 99%、「道徳の授業は楽しい」同 97%、「先生はよく遊んでくれ、話も良く聞いてくれる」同 98%、と（職員が課題としている項目でも）高い肯定感をもっている。時間的余裕のない中でも、職員が授業や子供たちを大切に扱っていたことがうかがえる。

対策：過密な日程時の出張等の調整を教頭・教務でさらにしっかりと管理する必要がある。管理職も積極的に填補に参入するように努めてはいる。また、授

業内容の精選と教材研究をさらに深めることで、学習の効率化を進める必要もある。年度末に次年度の教育課程の改善を全職員が参画しながら進めている。

14：児童は元気にあいさつができる。

7月 3.3 → 12月 2.8 -0.5 (今回の調査で最大のマイナス項目)

課題：5・6年生のあいさつはしっかりしている。それ以外の児童のあいさつが課題である。登下校時における元気なあいさつも地域でも評判ではあるが、それも班長、副班長である5・6年生の元気なあいさつにつられていく傾向が強い。

対策：日々の学級指導や生徒指導部での「あいさつの花束運動」で元気のいいあいさつを奨励している。アンケート結果が出て以降、職員も「自分から」「笑顔で」「継続して」のスローガンの下、率先垂範することを徹底した。

9：読書の時間確保と読書指導は十分できた。

7月 3.2 → 12月 2.9 -0.3 (今回最低の平均点)

課題：教員評価にも、読書量の確保や「全員50冊以上(みんなに進めたい1冊の本教育長賞)」等を挙げる職員が多かった。学習においても、心の成長においても読書の力は欠かせないものである。朝読書の時間も週に3日設定しており、児童は進んで読書に励んでいる(児童アンケート「読書にしっかり取り組んでいる」A+B 98%)。しかし、2学期については時間に余裕のない中、教科指導が優先され、読書指導が不十分であったと自覚する職員が多かったと思われる。

本年度の読書の状況は「教育長賞」42名91%達成(昨年43名)、「県知事賞」8名(同11名)と、昨年同様の好結果である。

対策：学校での読書に限らず、「家読」を奨励している。今後、児童だけでなく、保護者も子どもと共に「家読」をする日の働きかけを勧めていきたい。児童のスクリーンタイムの増加が、体や気持ちの被害にまで及ぶのではないかと社会問題にもなっている。学校の忙しさに左右されない読書時間の確保も視野に入れたい。

(3) 児童の評価結果の成果と課題及び対策(資料1の「児童」欄参照)

【成果】

7：学習には体験や活動がたくさんある。

7月 3.8 → 12月 3.8 ±0

取組：校外学習や外部指導者による合唱指導、食育指導、農業体験、安全安心講座、ケータイ教室、薬物乱用防止講座、税の教室、交通安全教室、AED講習、栄養指導等々年間を通して各学年で多くの体験学習を実施している。体験(活動)あって学習なしとならないよう、事前・事後の学習にも重きを置いている。交流学习の充実を図った。

成果：保護者アンケートも同様項目でA+B評価 98%

8：家庭学習にしっかり取り組んでいる。

7月 3.8 → 12月 3.7 -0.1 A+B評価 98%

取組：家庭学習も低学年からドリル等のいわゆる「宿題」から、自分で課題・内容を考えて決める「自主学習」や高学年では授業の予習・調べ学習を奨励し、徐々に浸透している。

成果：昨年12月84%より大きくアップ。保護者もA+B評価 93%

13：生活や学習の決まりを守っている。

7月 3.8 → 12月 3.7 -0.1 A+B評価 97%

取組：授業においても、学習の決まりや躰を徹底している。児童は当たり前のようにそれを身に付けようとしている。学習指導以前に学習の躰が重要という共通理解のもと、全職員で取り組んでいる。

成果：職員もA+B評価 100%

18：みんなの役に立ちたいと思っている。

7月 3.8 → 12月 3.7 -0.1 A+B評価 98%

取組：「自己有用感」の涵養に合わせて、「人のために」「学級のために」をスローガンの一つとして全職員が意識して取り組んだ。様々な学校行事や全校朝会での校長先生の話の中でも再三「みんなの役に立つ」ことを話している。直近ではアフガニスタンでの中村哲医師の話が大変好評であった。

成果：職員「自己有用感を伸ばす指導をしている」A+B 100%、保護者「児童は自分に自信をもっている」A+B 93%

25：交通ルールを守って安全に登校している。

7月 3.9 → 12月 3.9 A+B評価 99%

取組：登校班による登下校は5・6年のリーダーシップが発揮され、登校班の様子をチェック表にまとめて毎週、登校班担当教師に提出されている。班員の問題点はその日のうちに複数教師により班全員が指導を受ける。班長の責任感が高いレベルで醸成されている。

成果：児童の交通事故は本年度軽微なものを含めゼロである。

※課題については(7)「職員」を参照。

(4) 保護者の評価結果の成果（資料1「保護者」欄参照）

【成果】

18：学校は学級や児童の様子を発信している。

7月 3.5 → 12月 3.6 A+B評価 98%

取組：学級通信、学校だよりに加え、本年度は「HP毎日更新」に取り組んでいる。校長、教頭、教務で分担を決め、日々更新している。行事やPTA会合の際は校長自らが宣伝している。楽しみにしている保護者も多いが、アクセス数が伸び悩んでいる。

成果：前年61%から69% +8ポイント。

【課題と対策】

30：教職員は行事等で、保護者や地域の人達と積極的に交流している。

7月 3.5 → 12月 3.4 -0.1

課題：学校行事等への保護者の参加率は常に9割を超えており、学校への関心の高さがわかる。行事等の案内は文書では一か月以上前に出している。他に、学校HPや連絡メール等でも広く参加を呼びかけている。職員も進んでコミュニケーションをとっているが、今以上に積極的に取り組んでいきたい。

昨年比では、A評価 33% → 56% と大きく伸びている。

対策：今後ともお知らせ、PTA運営委員会等でより積極的な交流を図っていく。

4 成果と課題

今年度の12月の評価は、教職員、児童、保護者A+B評価の平均が96.8%と高い評価になった。昨年並であり、良い傾向である。

全般的に職員は自分の指導に対して「もっとできた」「もっとしっかりやりたい」感があるが、そんな中でも児童や保護者は「いつも良く話を聞いてくれる」「よく遊んでくれる」「わかる授業をしている」等の肯定的な回答を寄せてくれている。2学期は特に時間的余裕がない中での教育活動であったが、その中でも職員が手を抜こうとしないで限られた時間を有効に使い最大の効果を上げようと創意工夫していた様子がうかがえる。

児童の活動については縦割り班の活用とそれに伴う5・6年生のリーダーシップが重要なことは揺るがない。そうなるように丁寧に指導している先生方の力もさることながら、児童自身の(特に高学年の)自主・自律(自立)の力により、学校が成り立っているのも事実である。今後も、「自己有用感の育成・向上・醸成」を合い言葉に、児童自身の力を伸ばしていきたい。